

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 1 月 15 日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3474600198		
法人名	社会福祉法人 紅輝会		
事業所名	指定認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム よなみの里		
所在地	広島県神石郡神石高原町下豊松533-1		
	電話番号	0847-89-2015	
自己評価作成日	令和 5 年 1 月 15 日	評価結果市町村受理日	令和 5 年 5 月 1 日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

### 基本情報リンク先

### 【外部評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 5 年 3 月 27 日

### 【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは開所から18年目を迎えました。未だ新型コロナウイルス感染症の終息がみえない中、入居者の方の気分転換が図れるよう、ドライブ等の定期的な外出が行える環境作りには力を入れて取り組んでいます。また、入居者の高齢化が顕著となっておりますが、第一に一人ひとりの人柄を大切に、日々の生活の中で笑顔や笑いを引き出していくことに関しては精神面の安定化を図る礎として力を入れ取り組んでいます。その他、開所時から継続している通院(遠方含む)時の対応(スタッフの付き添い)は御家族への負担軽減、信頼関係を確立する意味で当グループホームが自負する所です。また、田舎ならではの大自然に恵まれた環境にある為、季節感を感じて頂ける所や旬の食材(土筆、栗、柿)は職員と一緒に作業を行い、後に食事で提供している所も当グループホームの特徴です。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな環境の中にあり、その時々山の色の移り変わりで季節が感じられ、穏やかに過ごせる恵まれた環境の中で安心して過ごされている。利用者も職員も同郷の方が多く、会話も弾み、一日を楽しく大家族の様に助け合いながら生活されている。ケアに関しても利用者一人ひとりに合わせた対応を心掛けると共に、その人の持てる力が発揮できる場面作りをされ、張りのある生活に繋がられている。又、個々に寄り添い、日々の会話から、その人の思いに耳を傾け、馴染みの場所で、自分らしく、過ごしてもらえるよう取り組まれている。特に医療面に関しては、協力医療機関や眼科、歯科等の通院支援は全て事業所が行い、家族の負担軽減に繋がられている。遠方への受診に関しても同様の支援をされている。結果についてもその都度家族に報告し、共有され、常に適切な医療が受けられる支援に努めている。コロナ禍の為、外出支援は以前にはできないが、感染予防を徹底し、ドライブに出かけ、車中からお花見や紅葉等を見てもらい、その時々季節を味わってもらい、気分転換や五感刺激となる様取り組まれていると共に室内行事も多く企画、少しでも笑顔になってもらえる様務めている。コロナ禍の為、家族の訪問制限ではあるが、家族の要望により、窓越しや玄関等でお会いしてもらい、家族との絆が途切れない支援に努めている。月1回は電話で日々の状況を伝えると共に写真付きのホーム便りを送付し安心感に繋がっていると共に家族との信頼関係を築き、両方で利用者を支えられ、安心、安全を大切にしたい支援に取り組まれている。清掃も行き届き、安心できる事業所である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所(職員室)内へ掲示している	誰も見え易い玄関に掲示している。又、独自の目標は事務所に掲示されていると共に毎朝、唱和する事で、原点に戻る機会とし、理念や目標に沿った支援を心掛け実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	covid-19の影響もあり、地域との交流は現状行えていない	コロナ禍の為、地域行事も中止となり、以前の様な交流はできていない。民生委員や町内会長には現状は書面にて報告し理解してもらい地域との絆が途切れない様務めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	covid-19の影響もあり、認知症の方への理解また支援の方法に関する場の機会が設けれていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	意見等はサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、開催できていないが、各運営委員の方に書面にて現状や取り組み等の報告をされ、理解してもらおう中で意見の把握に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加をして頂いたり、必要時には相談を行うなど協力関係は築けている	相談事項があれば気軽に相談できる関係であり、担当者や電話等で常に連携を取っている。行政から情報が入る体制も出来ていて、協力関係は築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的を確認を行い、毎月の会議においてもその都度確認を行っている	基本身体拘束はしない方針である。玄関の施錠を含め身体拘束はしていない。見守り強化で対応し制止や抑圧しない支援をしている。資料を基に定期的に研修を行い、全職員正しく理解されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な会議において対応の確認を行い、その都度知識を深めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については知識を得ている為、必要な時に活かしていきたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時や変更の際、説明を行い、理解と納得をして頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望等は運営に反映させている	毎月、各家族に電話等で現状を報告される中で聞く様にしておりと共に家族の訪問時、窓越しでお会いしてもらっているが、その際にも要望等の把握に努め、色んな場面での意見等は反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	色々な場面を通しての意見を反映させている	日々気付きがあればその都度聞いている。又、申し送り時にも意見の把握に努めている。検討すべき案件があれば話し合い検討し反映させている。メンタル面も管理者に相談し易い環境である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じて考え方や取り組み方について指導を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見交換が行えていないので意見交換等の場を設けていきたい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人との初回面接で関係作りができるよう心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の訴えには十分に耳を傾け、関係作りができるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要とされているサービスを見極め対応を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	他の入居者と生活が円滑に送れるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と共に本人を支えていけるよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	coovid-19により面会に制限がある為、写真を送付したり、手紙等で関係性が途切れないように努めている	家族の訪問も制限されているが、感染対策を講じた上で玄関や窓越しでお会いしてもらい、家族との絆が途切れない支援を心掛けている。電話の取り次ぎも柔軟にしている。希望で馴染みの美容院へ行かれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりを持てる場を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係性を断ち切らないよう相談しやすい環境作りを作っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切にし、本人本位で検討している	日々の会話や利用者同士の話から把握する事もある。又、個別対応時等でも何気ない話から汲み取る事もあり可能な限り意向に沿う様務めている。表出困難な場合は声かけしその時の表情から検討している。食べ物や散歩の希望が出る。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方を把握し、生活に活かせるよう心掛けている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活を通して現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	すべての意見を大切にし、反映させている	家族、本人の要望、主治医の所見、職員からの意見(課題やニーズ)を基に担当者会議で検討し、現状に即し、柔軟な計画を作成している。モニタリングは毎月、見直しは3ヶ月となっている。家族の承諾も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員間でこまめに情報を共有し、見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その都度ニーズに合った対応を臨機応変に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自身の力を発揮し安心感のある暮らしができるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	十分な話し合いを設け、適切な医療が受けられるように支援している	全員町立病院であり、通院支援は全て事業所が行っている。また、他科についても通院支援している。結果は、特記事項があれば即家族に報告している。24時間指示が得られ安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の医療連携時に入居者の状況報告を行っている。また、必要時には連絡をとれる体制を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	普段から必要時には地域連携室を通して連携を図っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じて早い段階で関係者へ相談するようにしている	利用開始時、終末に向けた方針について説明し、理解は得られている。事業所としてできる事をその都度説明し、話し合いを密に行い、家族の意向を確認し、方針を共有しながら出来るぎりぎりまでの支援を行っている。町立病院との連携は取れている。看取りはしない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践力を身に付けれるよう研修や指導を行っている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災時避難訓練及び年1回地震・水害時避難訓練を行っている	年2回、火災、地震等の訓練を実施し、消火、避難誘導等、慌てず速やかに対応できる様取り組まれている。反省会も行い、今後更なる個々の実践力を身につける様周知すると共に地域との協力体制強化にも努める。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	適切な対応を心掛けるよう定期的に指導を行っている	人生の先輩であり、年上の人という事を常に念頭に置き、個々を尊重した対応や声かけをするよう全職員に周知されている。馴れ合いになっても節度ある支援を心掛け、職員間で気付いた時には注意し合っている。定期的に研修も実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を大切にしながら支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを尊重している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常もだが特に外出時には身だしなみ等には意識を置き支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	できる方とは一緒に準備～片付けを行っている	刻み食の方もいるが、ほとんど普通食である。個々の好みも把握し、楽しみとなる様務めている。食後の後かたづけ(下膳、食器洗い)等もそれぞれができることをしてもらい、張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合った支援を行い、必要に応じて摂取量の記録・確認を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促し、支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンに応じた支援を行っている	個々の時間帯や表情などから把握し、できるだけ日中はトイレ誘導をされ、機能維持と生活習慣を活かした支援を心掛けている。自立の方や布パンツの方もいる。プライバシーにも注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の工夫を行い、便秘の予防、改善に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	必ず本人に入浴の希望の確認を行い、入浴を楽しんで頂けるように支援している	週2回、時間帯は午後となっている。順番や湯温等、希望に応じた対応をされ、楽しく入浴してもらえるよう努めている。拒否の方にはタイミングや声かけの工夫等され清潔保持に努めている。適宜足浴もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して休息、安眠できるような環境を提供している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服は事務所で管理を行い、状態の確認にも日々努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合った役割、楽しみを大切にしながら、気分転換にも意識を置き支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	COVID-19の影響もあるが、行きつけの散髪屋がある方等には状況を見極めながら利用して頂けるように支援している	コロナ禍の為、以前の様には外出支援はできていないが、ドライブで車中からお花見や紅葉、稲刈りの作業を見てもらい、季節感と気分転換、また、五感刺激となる様取り組まれている。お庭で日光浴をしたり、室内行事を企画し、楽しまれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理したい方には所持をして頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望がある時には関係する方に連絡をしたり、協力的な依頼し、支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔感は重視している。また、窓から季節感を感じて頂けるよう座席の位置も配慮している	お庭が広く季節のお花や野菜が植えられている。共有の場は広く、畳スペースもあり、季節ごとのちぎり絵等の作品が多く飾られ、時々季節が感じられる。又、清掃も行き届き、不快な匂いや死角もなく、穏やかに気持ちよく過せる共有の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の想いを大切にし、座席の配置も気の合う方と一緒に居られる空間を大切にしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人がこれまで大切にされてきた馴染みの物を持ってきて頂き、必要時その都度お願いをしている	使い慣れた、寝具や日用品、家具等を持ち込まれ、自宅とのギャップがないよう工夫されている。時計やカレンダーもあり、時の認識に繋がっている。又趣味のお人形も置かれ、安心して過ごせる環境作りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を確保し、自立に向けた支援に努めている		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼすべての家族と
		○	②利用者の2/3くらい			○	②家族の2/3くらい
			③利用者の1/3くらい				③家族の1/3くらい
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2/3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1/3くらいが			○	③あまり増えていない
			④ほとんどない				④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている		①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2/3くらいが				②職員の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが				③職員の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが			○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
		○	④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2/3くらいが			○	②家族等の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼすべての利用者が				①ほぼすべての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが				②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが				③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない

(別紙4(2))

事業所名: グループホームよなみの里

## 目標達成計画

作成日: 令和 5 年 4 月 26 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		covid-19 5類へ移行により感染リスクが高まる可能性がある為、クラスターを引き起こさないよう感染防止に向けた取り組みを行っていく。	職員/入居者、感染者ゼロ	基本的感染対策(手洗い/手指消毒/マスク着用/換気)を徹底していく。また、季節(夏季/冬季)に応じた換気方法の徹底も併せて行っていく。職員は体調管理に努め、異変時には事前に受診/休暇を確保するなど徹底した自己管理に努めていく。	6ヶ月
2	20	以前のような馴染みのある方や場所との関係性が築いて行けるような取り組みを行っていく。	面会ができる環境を構築し。入居者自身の安心/生きがいに繋げる。	面会を継続して行えるような十分な感染対策を行った上で支援に努めていき、入居者自身の精神面の安定化に繋げていく。また、ドライブや地域の行事への参加を取り入れていき、気分転換及び刺激の拡大を図っていく。	6ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。